教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 教授　　氏名： 塚田　みちる

研究分野	研究内容のキーワード
保育・発達心理学	発達心理学,母子関係の発達,自己の発達,乳幼児期,子育て支援の実践研究
学位	最終学歴
博士（心理学）	東京都立大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.少人数のゼミ活動での工夫	2012年4月1日～現在	多様な社会的活動への参加を通して、教育・保育学生の今だからこそできる子育て支援活動について学生の共働的活動を実現し、社会に貢献する実感を育てる工夫をしている。
2.「保育の心理学」等の講義における工夫	2012年4月1日～現在	心理学の知見が実際の保育現場での実践に役立つように、知識と実践のつながりを実感できる教材を作成している。例えば子どもの写真や映像など視聴覚教材の使用、保育現場で生じる多様な事例の紹介、グループワークやプロジェクト活動などである。
2 作成した教科書、教材		
1.エピソードで学ぶ保育のための心理学ー子ども理解のまなざし	2019年12月1日	乳児期から小学校就学前までの子どもの育ちについて、保育者養成校などで学ぶ学生の方や、保育の心理学に関心のある方などを対象にしたテキストである。
2.エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育てーいのちのリレーの心理学	2010年12月1日	胎児期から生後1年半までの赤ちゃんの発達を学び、親となることについてのイメージと必要な知識が得られる画期的な乳児心理学入門書である。
3.エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学ー関係のなかでそだつ子どもたち	2004年7月5日	発達心理学の基礎的な知見を筆者らの体験したエピソードをもとにして分かりやすく解説した心理学の初学者向けの新しいスタイルの入門書である。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.赤ちゃん先生クラスの開催	2022年12月継続中	NPO法人ママの働き方応援隊の主催する「赤ちゃん先生クラス」を短教：保育士養成課程科目、および、新教：幼稚園教諭教職課程の担当授業内で実施している。保護者との関わりを通して保育・教育学生の子育て支援力の向上と、赤ちゃんとの触れ合いによる命の授業を目的とした授業である。
2.赤ちゃん先生プロジェクトへの参加	2019年4月～現在	NPO法人ママの働き方応援隊の実施する赤ちゃん先生プロジェクトへの参加を通して、保育者を目指す学生の母親への理解、子どもへの理解、自分の将来のキャリアプランなどについて学ぶ場を作っている。
3.「にこにこママさんサークルの立ち上げ事業－＜保育学生－子ども－母親＞の交流を通した育ち合い支援事業－	2019年4月2021年3月	神戸市社会福祉協議会より「生駒温子」児童福祉事業助成を受けて、港島地区の子育て中の親同士の交流を促進する事業を実施した。
4.食物アレルギー児への親子クッキング講習会の開催	2018年4月～現在	医師、看護師、管理栄養士と大学関係者と共同で「神戸小児アレルギークッキング研究会」を主催し、年に数回、親子クッキング講習会を企画運営している。
5.ママさん先生プロジェクトの実施	2016年4月2021年3月	就学前の子育て家庭を保育者を目指す学生が訪問して、母親の育児の手助けをしたり、家庭での子育ての実際を体験する次世代育成のための活動を展開している。
6.乳幼児の保護者向け子育て相談の実施	2012年4月～現在	神戸市内の保育園にて「子育てサロン」を実施し、臨床発達心理士として園児の保護者、保育園近隣在住の保護者の子育て相談を受けている。
4 その他		
1.家庭裁判所調査官向けの定期講習会の実施	2008年2月2011年2月	テーマ「子どもならびに親子関係の観察法の実践」について研修会を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.臨床発達心理士	2012年4月1日～現在	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.接面を生きる人間学－「共に生きる」とはどういうことか	共	2021年5月	ミネルヴァ書房	関係発達論を基礎にした実践的研究として、保育者養成校の教員である筆者と教え子とのやり取りから「保育者になる」という前向きの気持ちが立ち上がる様相を、一連のエピソードに綴ったものである。
2.エピソードで学ぶ保育のための心理学ー子ども理解のまなざし	共	2019年12月1日	新曜社	乳児期から小学校就学前までの子どもの育ちについて、保育者養成校などで学ぶ学生の方や、保育の心理学に関心のある方などを対象にしたテキストである。
3.エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て　いのちのリレーの心理学	共	2010年12月1日	新曜社	胎児期から生後1年半までの赤ちゃんの発達を学び、親となることについてのイメージと必要な知識が得られる画期的な乳児心理学入門書である。
4.乳幼児の自己調整の発達過程と親子関係の歴史 ―親の「こうしないで欲しい」を子どもが聞き入れるようになる過程―	単	2009年1月	風間書房	本著は学位論文を出版したものである。内容は著者が乳幼児期の親子の関わりを観察することを通して出会った印象深い出来事を自己調整の発達という学問的関心に沿って解明したものである。
5.エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学－関係の中でそだつ子どもたち	共	2004年7月	新曜社	発達心理学の基礎的な知見を筆者らの体験したエピソードをもとにして分かりやすく解説した心理学の初学者向けの新しいスタイルの入門書である。
2 学位論文				
1.乳幼児の自己調整の発達過程と親子関係の歴史 ―親の「こうしないで欲しい」を子どもが聞き入れるようになる過程―	単	2008年3月	中京大学大学院	著者が乳幼児期の親子の関わりを観察することを通して出会った印象深い出来事を自己調整の発達という学問的関心に沿って解明するとともに、その出来事の意味を間身体的、間主観的に把握することによって、親子それぞれの思いを深く理解しようと試みたものである。
3 学術論文				
1.教育・保育者養成校における赤ちゃん先生クラス導入の試み-「子ども理解」に関する科目での子育て支援力育成の取り組み-（査読付き）	共	2024年3月刊行	教育学研究論集第19号　43-50	本稿では,教育学科・幼児教育学科で初となる「赤ちゃん先生クラス」を,教職課程・保育士養成課程の「子ども理解」に関する科目で導入して,子育て支援力育成の効果という点で検討したものである。受講学生は短大2年生と大学2年生である。受講のテーマは赤ちゃんを知ることであった。母子との実際的な交流を通して,乳児の気持ちを表情や振る舞いから感じ,またベビーカーでの移動体験や抱っこ体験によって子育ては大変なものだけれども喜びも大きいことを実感した。この体験から受講前は保護者との関わりに自信が抱けなかったことから,受講後は自信を抱くようになるという変化が明らかになった。これらのことから,養成校で育成される子育て支援力は,「子ども理解」の具体を知ることと,「育てる側になる」ことの実感が両輪となることが示唆された。
2.家庭訪問型子育て支援活動における保育学生の子育て支援力育成の検討 ―相互的な育ち合いを支援する試み―（査読付	単	2023年3月	教育学研究論集第18号　p.48-55	本稿では家庭訪問型の子育て支援活動において，保育学生と親子の関わり方の変化を明らかにすることにより，学生の子育て支援力の育成を検討した。短大２年生15名の訪問記録を，学生の「発信力のある対応」に着目して分析した。その結果，訪問回数が進むにつれて子どものペースに巻き込まれるなど受動的な対応から，保育教材を用いて遊びを提案するなど能動的な対応へ変化した。また，この

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
き）				変化の背景には，学生が親子との関わりにおいて抱く不安感などを受け止め，意欲向上に繋げて親子との交流を促すという教育的支援が必要であることも示された。これらのことから，保育学生が母親と連携しながら子どもの気持ちに働きかけるようになることが学生の子育て支援力であることが示唆された。
3.医療施設と大学が連携した食物アレルギー対応親子クッキング講習会による患者・家族支援の試み（査読付き）	共	2023年3月	日本小児臨床アレルギー学会誌　p.1-5	食物アレルギーを持つ子ども(以下FA児)と保護者の支援のために、3つの医療施設と大学（栄養系および幼児教育系）が連携して調理実習とミニ講座、保護者座談会から成る食物アレルギー対応親子クッキング講習会を開催した。保護者へのアンケートの結果、親子で楽しく調理ができ、初めてのクッキングを楽しんだり、調理実習の機会に恵まれにくい中で今回の体験が嬉しかった等の声がみられた。ミニ講座や保護者座談会では知識の取得や情報交換、保護者の思い等の共有の場となったことが示唆され、保護者同士やFA児同士の交流の場についてもニーズがあることがわかった。本講習会は多施設の連携によって実現できたものであり、今後も密に連携して継続的開催と検討を重ねていく必要がある。
4.子育て相談における支援者と母親の情動を媒介にした関係の形成 ―〈支援する－される〉という関係を「接面」という概念で読み解く（査読付）	単	2019年12月	臨床発達心理実践研究　第14巻　p.163～170	本研究は某保育園内の遊戯室開放にて実施される子育て相談を，＜支援する－される＞という関係に着目して取り上げたものである。母親‐子ども‐支援者（筆者）のあいだに生じた情動の動きをエピソードに記述した。
5.保育学生による子育て支援活動＜にこにこクラブ＞運営の現状と課題について―教職関連科目「学科特別演習」での親子遊びのひろばの実施を通して―（査読付き）	単	2019年3月	神戸女子短期大学教職課程研究　第3巻　p24-33	科目「学科特別演習Ⅰ・Ⅱ」において、地域の親子を対象にした遊びのひろば「にこにこクラブ」の企画・運営したほぼ10年間の経緯についてまとめたものである。
6.保育者志望学生の「今できる子育て支援とは何か」に関する―考察－家庭訪問型の子育て支援活動を通して―（査読付）	単	2018年3月	神戸女子短期大学「論攷」第63巻 p.99-110	本資料は保育者志望学生の「今できる子育て支援」という観点から、家庭参入型の子育て支援活動の内容を報告したものである。
7.子どもたちとの触れ合いが「教育（保育）者になる」という自覚に与える影響についての検討－科目「幼児理解の理論・方法」での学生の自己評価を通して―（査読付き）	単	2018年3月	神戸女子短期大学教職課程研究　第2巻　p10-17	科目「幼児理解の理論・方法」において、学生の「教育（保育）者になる」という自覚を高めるために「観察実習」を取り入れた。本稿では、その取り組みの前後で教育（保育）者になることへの自覚がどのように変化したかを学生の自己評価から検討した。
8.多世代交流による育て合いの実践としての子育てサポート活動の紹介と縦断的な効果の検討（査読付）	共	2017年3月	中京大学心理学研究科・心理学部紀要　第17巻（1）p.35-46	学部生と地域の多世代交流の実践に参加し、参加者へのアンケート調査、活動中の行動観察などの資料収集を行った。
9.小豆島らしい子育て環境についての調査報告―「島出身の母親」と「嫁いできた	単	2017年3月	神戸女子短期大学「論攷」第62巻 p.65-77	本調査は「小豆島らしい子育て」の環境を捉えるべく、現在小豆島で子育て中の母親を対象に子育てのメリット・デメリット、それへの解決策の観点から調査した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
母親」の語りの比較から（査読付）				
10.障がい特性のある子どもへの理解を深めるための授業研究-科目「教育相談の理論・方法」での絵本を使った模擬保育を通して―	単	2017年3月	神戸女子短期大学教職課程研究　第1巻　p2-13	科目「教育相談の理論・方法（カウンセリングを含む）」において、教育現場での相談場面で、クライエント（相談する側）の思いに寄り添った対応ができる自分をイメージできるための教材研究を取り上げた。
11.子育て支援に向けての保育者養成校と保育園の連携―「きずなDAY」の事例より（査読付）	共	2016年3月	神戸女子短期大学「論攷」第61巻 p.1-9	神戸女子短期大学幼児教育学科では、きずなDAYという学科企画行事を2012年度から神戸女子短期大学付属の保育園との合同行事として行っている。筆者はその大学側の主催者として企画・運営に関わっており、その中で学生の制作作品の紹介のコーナーも担当している。その紹介文を掲載した。
12.乳児の情動の調整における＜調整する－される＞という関係の検討　－生後半年間における三世代の関わりをめぐって－（査読付）	単	2015年3月	神戸女子短期大学「論攷」第60巻 p.17-31	本研究では、子どもの情動の調整を＜調整する－される＞という関係のありようとして検討した。出産前後に里帰りをして第一子を子育て中の母親と乳児、祖母を対象に、三者の日常生活の場に筆者が出向いて関与観察を行い、そこでの体験をもとにしたエピソード記述を分析対象にした。
13.実習における＜子ども－実習生との関係＞の検討―保育実習・教育実習での体験をエピソード記述で描く―（査読付）	単	2014年3月	神戸女子短期大学「論攷」第59巻 p.1-16	本研究は、保育者を目指す学生が、実習中に、子どもとどのように関係を形成するかを検討したものである。幼児教育学科の学生の協力を得て、初めての実習である「保育実習」と、続く「教育実習」の終了後に行ったエピソード記述を分析対象にした。
14.家庭参入型の親子とのふれあい体験が大学生の親準備性にもたらす効果（査読付）	共	2013年7月	臨床発達心理実践研究　第8巻　p.73～79	近年、若者の「親準備性」の低下という問題を受けて、本研究では、小さい子どもを子育て中の家庭に協力を呼びかけ、学生が家庭を訪問して日常生活を少しの時間ともにして、子育ての手伝いをするというプログラムを用意した。それに参加する前後での学生の「子ども」への意識調査を行った。
15.12ヶ月時から24ヶ月時における子どもの行為制御の発達：親子間の事物をめぐる葛藤の変化に注目して（査読付）	単	2008年12月	発達心理学研究 第19巻（4）p.331-341	１歳代の子どもの行為制御（＝自己調整）の発生と成り立ちを親子間での親の禁止と子どもの自己主張による葛藤的関わりの変化との関連で検討した。
16.心理学部における発達心理学教育の歩み―講義者の試みを受講生はどう受け止めたか―（査読付）	共	2006年3月	中京大学心理学科・心理学部紀要　第5巻（2）p.1-21	心理学部における学部1年生を対象とした「発達心理学概論」という講義内容の平成13年から平成17年までの変遷を概略した。
17.非血縁家族において子どもが作る自分史への発達支援 ―育て親によるテリングに関する探索的検討―（査読付）	共	2006年3月	中京大学心理学科・心理学部紀要　第5巻（2）p.23-33	非血縁家族における家族関係に関わる共同研究において、育ての親のテリングと子どもの自分史形成との関連性について理論的考察を試みた。
18.乳幼児期における自己主張性の発達と母親の対処行動の変容：食事場面における生後5-15ヶ月までの縦断研究（査読付）	共	2005年4月	発達心理学研究 第16巻（1）p.46-58	乳幼児期の母子コミュニケーションに関わる共同研究において、食事場面における母子相互交渉の変化と子どもの自己主張行動の発生と関連性について検討した。
19.0-1歳児における「不従順さ」 ―食事場面における母子間コンフリクトの展開―	共	2004年3月	東京都立大学心理学研究　第14巻 p.27-38	乳幼児期の母子間コミュニケーションに関わる共同研究において、子どものいわゆる「反抗期」に着目した。親の禁止に対して不従順を示すことで自己主張をする。この不従順（反抗・抵抗）行為の内容について検討した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
（査読付）				
20.からかいコミュニケーション現象を通してみる乳幼児期のコミュニケーションの質的変化（査読付）	共	2004年3月	東京都立大学心理学研究　第14巻 p.1-8	本論は乳幼児期の母子コミュニケーションに関わる共同研究においてコミュニケーションの質的変化を、子どものこうした「わざと悪いことをする行動」や「からかい行動」に着目して理論的考察を試みた。
21.育ての親が生みの親の存在を子どもに伝え続けること ―ＯｐｅｎAdoption におけるテリングをめぐる発達支援―（査読付）	共	2004年3月	中京大学心理学科・心理学部紀要　第3巻（1）p.132-141	非血縁家族における家族関係に関わる共同研究において、育ての親のテリングについて事例検討を行った。
22.非血縁家族における若年養子へのテリング ―育ての親はどのように試みているか？―（査読付）	共	2004年3月	中京大学心理学科・心理学部紀要　第3巻（1）p.1-6	非血縁家族における家族関係に関わる共同研究において、育て親のテリング（育て親とは別に生みの親がいることを子どもに伝え続けること）の内容について、対象者にアンケート調査を行った。
23.就学前児における親子理解の検討 ―「生みの親」と「育ての親」をどう理解しているか（査読付）	共	2003年10月	子ども家庭福祉学　第3巻p.1-10	本論は非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。非血縁家族に調査を行うに先立って、対象群である血縁家族の子どもに実験的場面を設けて調査を行った。
24.養育者との相互交渉に見られる乳児の応答性の発達的変化 ：二項から三項への移行プロセスに着目して（査読付）	単	2001年4月	発達心理学研究 第12巻（1）p.1-11	生後９ヶ月は「９ヶ月ミラクル」と称されるように、子どもの世界の認識の仕方がそれ以前とは劇的に異なる時期といわれている。本論はその生後９ヶ月の変化に着目し親子間での対面的なやり取り（二項的関係）から事物を介した三項的関係へ移行する過程について行動的な変化を検討した。
25.コミュニケーションの変化と子どもの自己の発達Ⅰ ：生後８ヶ月から１年までの断続的研究（査読付）	共	2000年3月	東京都立大学心理学研究　第10巻 p.17-24	母子の事物を介したやり取りの変化を銃弾的観察データから検討し、子どもの自己の発生との関連性の観点から考察した。
26.コミュニケーションの変化と子どもの自己の発達Ⅱ ：近年の２つの自己発達研究をめぐって（査読付）	共	2000年3月	東京都立大学心理学研究　第10巻 p.24-34	母子コミュニケーションと子どもの自己の発達との関連性について、とりわけワロンの理論をもとに考察を試みた。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.医療機関と連携して「親子アレルギー対応クッキング講習会」を開催する受け入れ側（大学）の体制と配慮すべき事項に関する考察	共	2021年5月	第37回日本小児臨床アレルギー学会　同愛記念病院小児アレルギーセンター/和洋女子大学	親子FA対応クッキング講習会を安全かつ円滑に行うために、医療関係者と大学関係者との連携の体制と配慮すべき事項を検討した。
2.食物アレルギー対応親子クッキングの試み	共	2021年5月	第37回日本小児臨床アレルギー学会　同愛記念病院小児アレルギーセンター/和洋女子大学	食物アレルギーのある子どもが、アレルギー対応の料理をすることで、アレルギー対応食への関心を持つことや、食物アレルギーを持つ子ども同士の交流をはかるという講習会の内容を医療関係者のサイドから検討した。
3.保育学生の今だから	単	2019年3月	日本発達心理学会	保護者の子育て相談に応じる経験から＜支援する－される＞という

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
こそできる子育て支援とは何か一家庭訪問型子育て支援活動「ママさん先生プロジェクト」を通して一			第30回大会　東京：早稲田大学	関係の成り立ちに興味を抱いている。この疑問にチャレンジするために家庭訪問型の支援活動「ママさん先生プロジェクト」を実施し、その課題について検討した。
4.子どもと通じ合うこと-実習中の体験をエピソード記述で描く-	単	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会　東京：東京大学	幼稚園教員免許と保育士の養成校では学生が教育実習と保育所実習の内容について子どもの年齢ごとに検討した。
5.子どもと通じ合うという実習体験を描く-初めての保育所実習と教育実習での体験を比較して-	単	2014年5月	日本保育学会第67回大会　大阪：大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学	幼稚園教員免許と保育士の養成校では学生が教育実習と保育所実習を経験するが、それらの経験の違いについて検討した。
6.乳児の気質：月齢による母親の認識の違い	共	2013年9月	第78回日本心理学会　札幌コンベンションセンター	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の成果の一部として発表した。
7.母親の玩具選択に見る養育態度と子どもの気質との関連	共	2013年9月	第78回日本心理学会　札幌コンベンションセンター	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の成果の一部である。
8.新米ママによる寝かしつけ行為の生後1年間の変化～「育てる者」から「育てられるもの」へ	共	2013年5月	第66回日本保育学会　中村学園大学・中村学園大学短期大学部	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、第一子出産・子育てを始めたある母親の調査結果である。
9.Prevention of injury to infants by Japanese mothers : From the perspective of socialization	共	2013年3月	121th American Psychological Association (APA) Annual Convention,	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、日本における就学前の幼児から青年期への発達的変化について展望を発表した。
10.乳児の気質：行動観察データと母親の認識との比較：実験的観察法と質問紙測定による行動的抑制傾向とエフォートフル・コントロール	共	2012年9月	第77回日本心理学会　札幌市産業振興センター	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、研究手法に着目して議論した。
11.新米母親の寝かしつけ行為にみる親の抱く大人性と子ども性-里帰り中の母子と祖母の関係から-	共	2012年3月	日本発達心理学会第23回大会　名古屋国際会議場	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、初めて子どもを出産して育児を始める母親が母親らしい心境に変化していくプロセスについて検討した。
12.おもちゃの片付け場面における子どもの行動パターン	共	2012年3月	日本発達心理学会第23回大会　名古屋国際会議場	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として子どもの行動に着目して検討した。
13.乳幼児期の自己制御行動にかかる気質測定のためのテストバッテリー開発	共	2011年5月	日本赤ちゃん学会第11回大会　中部学院大学各務原キャンパス	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、乳幼児期の自己制御行動を調査した。
14.Japanese children self-regulation in peer relationship : Developmental perspective from preschool years to adolescence	共	2011年4月	Society for Research in Child Development Palais des congrès de Montréal・Canada	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、日本における就学前の幼児から青年期への発達的変化について展望を発表した。
15.乳幼児期のエフォー	共	2010年3月	日本発達心理学会	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
ロフル・コントロールと行動的抑制傾向			第21回大会　関西エリア連合：奈良女子大学	行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、乳幼児期の自己制御の発達過程においてエフォートフルコントロールの能力の向上と行動的抑制の気質的傾向との関連を調べた。
16.乳幼児期の自己制御行動にかかる気質測定のためのテストバッテリー開発-行動抑制傾向とエフォートフル・コントロールについて-	共	2010年3月	第10回日本赤ちゃん学会　東京大学本郷キャンパス	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、気質測定のためのテストバッテリーについて検討した。
17.子育て家庭での継続的支援の経験が大学生の子育て観に及ぼす影響	共	2010年3月	日本発達心理学会第21回大会　関西エリア連合：奈良女子大学	近年、青年における「親準備性」の低さが懸念されている。本研究では大学生に子育て中の家庭に継続的に訪問をして、日常のさまざまな育児行動を支援するプログラムを実施した。
18.祖母－母親－子どものあいだの世代間伝達「かつての子ども」が呼び起されるという経験を通して.	共	2009年3月	日本発達心理学会第20回大会　日本女子大学	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、本研究では「親になること」の過程における世代間伝達の問題を取り上げた。
19.A Developmental Study on “Telling” in the Open Adoptive Families.	共	2008年7月	Presented paper at 19th biennial meeting of ISSBD, Melbourne, Australia.	本論は，非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。本発表は22で挙げた内容を海外で発表したものである。
20.就学前児における親との葛藤解決プロセスの発達―余ったケーキは誰のもの？　お父さん？　お母さん？　それとも自分？	共	2006年3月	日本発達心理学会第15回大会　白百合女子大学	本研究では，就学前児の子どもが家庭において母親との葛藤を解決するときにどのようなプロセスをたどるのかを取り上げた。
21.育て親が生みの親の存在を子どもへ伝え続けること―テリングをめぐる発達支援―	共	2006年3月	日本発達心理学会第15回大会　白百合女子大学	本論は，非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つとして、育て親が子どもの発達に伴ってどのようにテリングの内容を変化させていくのかを検討した。
22.家族における育て親の態度-子ども・子育て観と夫婦関係-	共	2004年9月	日本心理学会第68回大会　関西大学	本論は，非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。育て親の子育て観や夫婦関係や結婚についての認知の様態を，実子を育てている群と比較検討した。
23.Telling the adopted children in nonbiological families about their origins: How are the adoptive parents trying to do this?	共	2004年7月	Presented paper at 18th biennial meeting of ISSBD	本論は，非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。本発表は19で挙げた内容を海外で発表したものである。
24.グレーゾーンの子どもをめぐる発達支援（３）：活動参入に困難を示した事例への対応	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会　白百合女子大学	本研究は，情動のコントロールがうまくいかない子どもを，障がいにおける「グレーゾーン」と捉えて，親子への発達支援を目的とした研究の一環である。情動表出の問題をアセスメントするために「行動観察」を縦断的に行った。
25.就学前期のからかいコミュニケーションの様相：子どものおやつを親が「ちょう	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会　白百合女子大学	子どもの自己主張の形態のうち拒否行動に注目し，3～5歳におけるその形態的変化を検討した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
だい」というやり取りをめぐって				
26.育ての親が生みの親の存在を子どもに伝え続けること-その三　子どもの自己像・親理解とテリング-	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会　白百合女子大学	本論は，非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。テリングを継続的に行うことによって，子どもの自己像と親理解がどのように変化するかを検討した。
27.育ての親が生みの親の存在を子どもに伝え続けること-その二　育ての親によるテリング-	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会　白百合女子大学	本論は，非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。「テリング」の内実に迫るため，育ての親がどのような点に考慮して行っているのかを検討した。
28.育ての親が生みの親の存在を子どもに伝え続けること-その一　研究の構想-	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会　白百合女子大学	本論は，非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。「育ての親への効果」と「子どもへの効果」とに分けて検討していくという構想について述べた。
29.お母さんってどんな人？～育ての母親、生みの母親、子どもの登場する物語理解をめぐって～	共	2003年3月	日本発達心理学会第14回大会　兵庫教育大学	本論は，非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。血縁関係にある子どもは，子どもが母親から「生まれること」と「育てること」をどのように理解しているかを4，5歳児を対象に調査した。
30.グレーゾーンの子どもをめぐる発達支援（２）-支援初期における情動アセスメントの方法の検討-	共	2003年3月	日本発達心理学会第14回大会　兵庫教育大学	本研究は，情動のコントロールがうまくいかない子どもを，障がいにおける「グレーゾーン」と捉えて，親子への発達支援を目的とした研究の一環である。情動表出の問題をアセスメントするために「行動観察」を縦断的に行った。
31.乳児期における要求-拒否行動の発達：表出形式の分析から	共	2003年3月	日本心理学会第67回大会　東京大学	乳児期における自己主張の発達を，要求と拒否というに側面から検討した。
32.初期negativismの発達と養育者の対処行動の変容	共	2003年3月	日本発達心理学会第14回大会　兵庫教育大学	乳児期における自己主張の発達を，養育者の対処行動に着目して検討した。
33.On the role of role-reversalbehavior contributed to self- development in infancy : A naturalistic longitudinal study in Japan	共	2002年7月	Presented paper at 17th biennial meeting of ISSBD	日本の子どもを対象に、乳幼児期における自己主張の発達について日常場面の観察を通して検討した。
34.グレーゾーンの子どもをめぐる発達支援（１）	共	2002年3月	日本発達心理学会第13回大会　早稲田大学	本研究は，情動のコントロールがうまくいかない子どもを，障がいにおける「グレーゾーン」と捉えて，親子への発達支援を目的とした研究の一環である。親子には「遊びの会」に参加してもらい，そこでの自由遊びや設定遊びでの対人的やり取りを記録した。
35.三項関係とは何を準備する構造なのか（2）-受け渡し行為の発達的変化：どうしてお父さんにはくれないの？-	共	2002年3月	日本発達心理学会第13回大会　早稲田大学	本研究では＜自己ー対象ー他者＞の三項関係という新しい社会構造が成立するときに着目した。特に二者間における「giving行為」の機能的変化に注目した。
36.三項関係とは何を準備する構造なのか（１）-自己主張の発生メカニズムをめぐって-	共	2002年3月	日本発達心理学会第13回大会 早稲田大学	本研究では＜自己ー対象ー他者＞の三項関係という新しい社会構造が成立するときに着目した。特に二者間における「役割交替」現象に注目し，それと自己主張との関連を検討した。
37.「応じる」ときと「応じない」とき：他者の「どうぞ」と	単	2001年3月	日本発達心理学会第12回大会　鳴門教育大学	子どもの自己の発達を，事物をめぐるやり取りにおける「他者に応じる力」と「他者に応じない力」と捉えて，生後半年から2歳までのコミュニケーションを分析した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
「ちょうだい」への子どもの選択性の出現				
38.思春期の感性と自我発達（１）	共	2000年3月	日本発達心理学会第11回大会　東京女子大学	本研究は「思春期の自我発達」をテーマにした共同研究の一環である。本発表は，中学生の自我発達を彼らの感性を測定することで描き出すことを目的とした。
39.思春期の感性と自我発達（２）	共	2000年3月	日本発達心理学会第11回大会　東京女子大学	本研究は「思春期の自我発達」をテーマにした共同研究の一環である。本発表は，研究の基本的枠組みを紹介した。
40.母子の相互随伴とコミュニケーションの変化：月齢8～12か月まで のもののやり取り場面を通して	単	2000年3月	日本発達心理学会第11回大会　東京女子大学	母親と乳児のやり取りの中でも，とりわけ事物を介したやり取りに注目し、生後8カ月から12カ月において，母子のやり取りを分析した。
41.養育者とのコミュニケーションにみられる乳児の行動と情動の体制化	単	1999年3月	日本発達心理学会第10回大会　大阪学院大学	本研究では，やり取りにおける乳児の情動表出の変化に着目して分析した。
42.乳児期における対人表象のk形成	単	1998年3月	日本感情心理学会第６回大会	生後半年から1歳に至る過程において，子どもと母親の関わりの変化を行動分析，および情緒的評定を用いて分析した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.保育学生から新人保育士へのキャリア発達とその支援 ―親子と共に生きる関係性の形成を目指して―	単	2023年3月	教育学研究論集第18号　p.129-130	本稿は2022年度教育学科FD研修会で発表した内容をまとめたものである。筆者が本学に着任して初めての発表であったため，現在の研究上の中心的な関心事項である保育学生の「子育て支援力の育成」というテーマに至る経緯と，現在は，保育学生と保護者をつなぐような子育て支援活動を展開しながら実践研究に取り組んでいることについて紹介した。最後に，本学での活動の取り組みの可能性と，今後の研究にICTをいかに活用するかが課題であることを述べた。
2.楽しく過ごそうおうち時間　生活編　手作りおもちゃ編	共	2020年8月	神戸女子短期大学幼児教育学科　さくらんぼプロジェクト報告書	2018年度から実施している神女中山手保育園の保護者と神戸女子短期大学幼児教育学科2年生との繋がりづくりのプロジェクト（さくらんぼプロジェクト）の報告書である。
3.きずなDAY　報告書	共	2012年4月 2021年まで	神戸女子短期大学幼児教育学科	神戸女子短期大学幼児教育学科と神女中山手保育園との合同行事についての報告書について第1回から第10回まで報告書の一部を作成した。
4.守口市子育て支援センター講座「あんなこと、こんなこと、おしゃべりしよう」	単	2010年11月	守口市子育て支援センター　子育て活動報告書	就学前の子どもを育てている保護者を対象に、子育ての悩みをテーマごとに分かれてグループディスカッションを行い、総括した。
5.守口市子育て支援センター講座「さぁ今から始めよう、自分らしい子育て」	単	2010年2月	守口市子育て支援センター　子育て活動報告書	就学前の子どもを育てている保護者を対象に、親になるプロセスについての心理発達をテーマに座談会を行った。
6.読売新聞ほうむたうん　子育てコラム「あっちむいてほい」	共	2000年4月 2013年まで	読売新聞　生活コラム記事	月に一度、生活コラム欄に子どもの育ちの姿や子育てにまつわる様々な悩み事を取り上げ、具体的なエピソードと発達心理学的な簡単な解説を付した。
６．研究費の取得状況				
1.　にこにこママさんサークルの立ち上げ事業 －＜保育学生－子ども－母親＞の交流を通した育ち合い支援事業－	単	2019年4月 2021年3月まで	神戸市社会福祉協議会「生駒温子」児童福祉事業助成	保護者同士の繋がりを、保護者が主体となって作っていけるように大学側がサポートを行い、子育て支援活動の支援への主体性や自立性を育むことを目指した実践活動である。
2.保育学生による家庭	単	2018年4月	行吉学園　教育・	家庭参入型子育て支援活動の教育効果が新任保育士としての2年間に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
参入型子育て支援活動の教育効果の研究―保護者対応力に着目して―		2021年3月まで	研究助成費	保護者への対応に活かされているかどうかを検討する。本活動の経験がその後の「保護者対応力」にどのようにつながるかを明らかにした。
3.地域の子育て支援活動における「世代間交流」のあり方に関する調査研究	共	2018年4月 2019年3月まで	行吉学園　全学的な教育の質的転換を図るための先駆的調査・研究	神女幼児教育学科で主催している子育て支援活動、遊びにひろば「にこにこクラブ」の今後の在り方を検討するために、同じような活動を行う札幌大谷大学の活動を見学および主催者へのインタビュー調査を行い、比較検討した。
4.小豆島ならではの食育活動と幼児の「その子らしさ」の育ち	単	2013年4月 2018年3月まで	行吉学園　教育・研究助成費	本調査は子育て環境の1つとして地域の対人的なつながりが比較に敵密接であるといわれる地域に着目して、その地域の1つとして小豆島で子育て中の母親を対象に子育てのメリット・デメリット、それへの解決策の観点から調査した。
5.自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究	共	2009年4月 2014年3月まで	科学研究費補助金　基盤研究(B)	発達初期から観察される2つの気質，エフォートフル・コントロール（注意や情動のコントロールにおける個人差）と行動的抑制傾向（新奇な事物・人物・状況に対して臆するなど行動が抑制する傾向）の個人差に焦点をあて、その発達過程について調査した。
6.非血縁親子が育む家族機能と子どもの親理解・自己理解	共	2005年4月 2007年3月まで	科学研究費補助金　基盤研究(C)	育て親が子どもの発達に伴いどのようにテリングを行っていくのか、子どもたちがテリングを通じてどのように自己理解や親子関係理解を深めていくのかを把握し、家族機能が生成されるプロセスについて検討した。
7.非血縁家族における子どもへの真実告知―実親サーチに関する発達心理学的検討	共	2001年4月 2003年3月まで	科学研究費補助金　基盤研究(C)	本研究は、2歳未満の子どもを養子に迎えることによって成立した親子関係において、真実告知が、その後の親子関係や及び子ども自己アイデンティティの形成に肯定的意味をもつという考えを検証しものである。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2012年4月～現在	日本臨床発達心理士会
2.2012年4月～現在	日本心理学会
3.2010年4月～現在	日本保育学会
4.2008年4月～2010年3月	日本発達心理学研究　編集委員
5.2002年4月～現在	日本子ども家庭福祉学会
6.1998年4月～現在	日本発達心理学会　会員